

東北大学DEIシンポジウム 登壇者プロフィール

Tohoku University DEI Symposium / Speaker Profile

◎ 基調講演 Keynote Speech

スタンフォード大学歴史学科ジョン・L・ハインズ科学史教授
「科学、医学、工学、環境学分野における
ジェンダー・イノベーション」プロジェクト創設者



Londa Schiebinger

John L. Hinds Professor of History of Science, History Department,
Director, Gendered Innovations in Science, Health & Medicine,
Engineering, and Environment.

【略歴】

国際共同プロジェクトGendered Innovations in Science, Health & Medicine, Engineering, and Environment創設ディレクター。「科学と技術におけるジェンダー」研究の国際的先駆者であり、国連、欧州議会ほか多くの研究助成機関で講演活動を行っている。ハーバード大学で博士号を取得。米国芸術科学アカデミー会員。アレクサンダー・フォン・フンボルト研究賞やグッゲンハイム・フェローシップをはじめ、数々の栄誉ある賞を受賞している。ヴァレンシア大学、ルンズ大学、ブリュッセル大学から名誉博士号を授与。

◎ 主な活動・著書

多数の著書のうち、邦訳出版に「科学史から消された女性たち アカデミー下の知と創造性」(工作舎、1992年、2022年9月改訂出版)、「女性を弄ぶ博物学 リンネはなぜ乳房にこだわったのか?」(工作舎、1996年)、『ジェンダーは科学を変える!? 医療・霊長類学から物理学・数学まで』(工作舎、2002年)、『植物と帝国: 抹殺された中絶薬とジェンダー』(工作舎、2007年)、『奴隷たちの秘密の薬 18世紀大西洋世界の医療と無知学』(工作舎、2024年)などがある。ほか著書にGendered Innovations 2: How Inclusive Analysis Contributes to Research and Innovation, ed. With Ineke Klinge (Luxembourg: Publications Office of the European Union, 2020)など多数。

◎ パネル討論 Panel Discussions

東北大学工学研究科 教授/
ファイトケミカルプロダクツ株式会社 取締役



北川 尚美 Naomi Shibusaki-Kitakawa

Graduate School of Engineering, Professor, Tohoku University /
Phytochem Products Inc. CTO

【略歴】

東北大学工学部卒業。博士(工学)取得(所属学科初の博士号取得女性)。
東北大学反応化学研究所 准教授、米国コーネル大学工学部化学工学科研究員などを経て現職。ファイトケミカルプロダクツ株式会社 取締役、文部科学省科学官、日本学術会議第三部会員・副部長なども務める。

◎ 主な活動・著書

化学工学会や日本化学会の男女共同参画委員会委員長、男女共同参画学協会連絡会第15期委員長を務め、2021年からは東北大学工学研究科の男女共同参画担当の研究科長補佐としてDEI推進プロジェクトに取り組んでいる。JSPS男女共同参画推進シンポジウムや日本学術会議のワークショップを始め、(国研)情報通信研究機構や各高等専門学校のほか、日本金属学会、日本鉄鋼協会、日本化学会などの学協会でも多数講演を行っている。研究者のジェンダー比率に関する解説のほか(『ジェンダー事典』2024年)、日本食品工学会誌などでも、ダイバーシティやスタートアップに関して寄稿している。

◎ パネル討論 Panel Discussions

仙台市経済局スタートアップ支援課 拠点形成係長



白川 裕也 Yuuya Shirakawa

Startup Support Section, Economic Affairs Bureau, City of Sendai
Manager for Startup Ecosystem Development

【略歴】

秋田県大館市生まれ。東北大学卒。東北の経済を活性化するような仕事がしたいという想いを抱き、仙台市役所に入庁。キャリアのほとんどを経済局で過ごし、企業誘致、復興特区制度企画・運営、中小企業金融支援を担当。2013年からは起業支援業務を担当し、仙台市起業支援センターの立ち上げ、国家戦略特区制度や社会起業家支援プログラム、広域アクセラレーションプログラムの企画・運営、スタートアップ・エコシステム拠点都市の推進などを担当。行政と民間の垣根を超えて、東北を盛り上げるため、様々な活動を行っている。

◎ 主な活動・著書

行政の立場から10年以上スタートアップ支援に携った経験に基づき、内閣府、地方自治体、大学、経済団体のスタートアップカンファレンス等への登壇やワークショップの講師、プログラムのメンター、政府や地方自治体の審査員等を務める。東北大学産学連携機構特任准教授(客員)、(国研)情報通信研究機構招へい専門員(イノベーションコーディネーター)、Forbes JAPANスモールジャイアントイノベーション。

◎ 講演 Speech

東北大学副理事(DEI推進担当)、DEI推進センター長

田中 真美 Mami Tanaka

Associate Executive Vice President (for DEI), Tohoku University /
Director, Center for DEI



【略歴】

東北大学工学研究科 博士課程前期 修了。博士(工学)。東北大学 工学部、助教、大学院工学研究科 准教授を経て大学院医工学研究科/工学研究科(兼)教授。東北大学工学系女性研究者育成支援推進室 室長、東北大学DEI推進センター センター長。日本学術会議第三部会員、仙台市男女共同参画推進審議会会長なども務める。

◎ 主な活動

機械工学、バイオメカトロニクス、医療福祉工学分野の研究に携わり、日本学術振興会賞、日本機械学会論文賞、文部科学大臣表彰若手科学者賞、手島工業教育資金団工業技術研究賞ほか、数多くの賞を受賞。

◎ パネル討論 Panel Discussions

大阪大学社会技術共創研究センター 特任研究員

鶴田 想人 Soto Tsuruta

Osaka University Research Center on Ethical, Legal and Social Issues
Specially Appointed Fellow



【略歴】

大阪大学社会技術共創研究センター特任研究員。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学、修士(学術)。専門は科学史・科学論。日本学術振興会特別研究員(DC1)などを経て現職。

◎ 主な活動・著書

「作られた無知」の観点から歴史を見る無知学(アグノロジー)の研究・紹介をするなかで、ジェンダーその他の社会的要因が生み出す無知にも着目。無知学に関する企業・学会等での講演のほか、ジェンダー・イノベーション(GI)に関するシンポジウムに登壇(東海ジェンダー研究所25周年記念国際講演会、2022年9月;科学技術社会論学会シンポジウム、2024年9月)、また雑誌への寄稿、翻訳等を行ってきた。主な論文に、「無知学(アグノロジー)の現在」(『現代思想』2023年9月号)。編著に国内初となるGIに関する論文集『ジェンダー・イノベーションの可能性』(共編、明石書店、2024年)、訳書にGの提唱者ロンダ・シービンガーの著書『奴隷たちの秘密の薬』(共訳、工作舎、2024年)がある。明石書店より「無知学への招待」(共編)を準備中。

◎ パネル討論 Panel Discussions

株式会社仙台三越 代表取締役社長

小宮 仁奈子 Ninako Komiya

Sendai Mitsukoshi Ltd. President



【略歴】

1991年株式会社伊勢丹入社、株式会社三越伊勢丹、営業本部基幹店事業部伊勢丹新宿本店営業統括部婦人雑貨営業部長、同 執行役員 百貨店事業本部三越恵比寿店長、同 執行役員 MD統括部化粧品グループ長、同 執行役員 MD統括部ストアクリエーショングループ長などを経て現職。

◎ 主な活動・著書

宮城教育大学、仙台働く女性のネットワーク(Radi-Lady)などで働く女性をテーマに講演を行う。24年より仙台市ダイバーシティ推進会議委員。

◎ パネル討論 Panel Discussions

株式会社LITALICO
執行役員CQO/LITALICO研究所所長

榎本 大貴 Daiki Enomoto

LITALICO inc. Chief Quality Officer / LITALICO lab. Director



【略歴】

2012年に株式会社LITALICOに新卒入社。LITALICOジュニアで支援員、スーパーバイザー、教材・サービス開発のディレクターを経て、LITALICO研究所を設立。執行役員CQO(Chief Quality Officer/最高品質責任者)として、LITALICOの各種サービスの質の保証・改善・進化のための仕組みづくりや研究開発に従事。修士(学際情報学)。クオリティマネジメント統括部長。LITALICO研究所所長。自身のビジョンは、「誰もがアクセシビリティを身近に感じ、実践したくなる社会を目指す」。

◎ 主な活動・著書

社内にてCQOとしてサービス/支援の品質マネジメントの仕組みづくりを実践。その過程で、当事者も含む様々なステークホルダーと協働して研究開発やプロダクト開発を推進。著書:「発達障害のある子どもと周囲との関係性を支援する: コミュニケーション支援のための6つのポイントと5つのフォーカス」(野口・陶 著)の分担執筆。